



畫本西遊傳

二編

廿一



~13
3843
13



門へ13
3843
13



繪本西遊記二編卷之五

大聖慇懃拜南海

觀音慈善縛紅孩

却說六個妖怪門を出て、迷小西南を望み、まきり行行者をばらり
他大王と稱するは是牛大王なり。我とて、小牛大王を記得。我
今他を鼻撮り、妻とて紅孩児を欺し、翅を兩ちり、飛去。六人の
者より先、不到里身を變じ、牛大王となり。又幾根の毫毛を抜
く小怪とて、山乃凹なる処小居り、待居り。六怪是をみて、手路
を急ぎ、行く所、忽ち前面小牛大王居り、大いふとて、
一各小跪下し、くちや中。是は老大王不在、小的們は、是聖嬰大王の命
を受、大王を請く。唐僧の肉を獻せ、手紀の壽を延せ、めんを
ふき、くちや中。行者牛大王、趣りて曰、孩児我を請く、や、然るを

西遊記二編卷之五

汝亦前ふき路を閑けよ六怪唯々々々前ふき路閑とやど
なく洞はひりり六個乃妖怪々々報どもれを紅孩児急だ洞を出
て迎接行者拽肉大步門の裡へ入南面小坐と當正小居と人妖
王跪拜と下手小就行者が曰我兒我を繕まつて何するあふ妖
王曰孩児昨日唐僧を捉はつて他八十世修行乃人なりり他が塊
乃肉を吃ふ河八延壽千紀とつり故小愚男二人受用せよ持小又
王を繕と曰く享んて行者驚一體と曰唐僧が孫悟空
とり者是を保つ西天小往經をくも人小あふを妖怪が曰正小是
なり行者手成揺と曰莫惹々々那孫行者八神通廣大変化去端
他曾て天宮を闹せし時玉帝十万の天兵を下してゆけ他を捉ゆ
く不能汝もろ小他を吃を爲とつり早く送出と他小還せ妖

怪が曰又王何ゆ他を長とて自己乃威風を滅しとや那孫行者
孩児と交戦て兩番も小我三昧火小燒敗られ今早とつり
門小吟唱小妖們小追とつり慌はる包袱をて丟下とつり迎走と
里故小又王を繕きとつり唐僧乃活像を乃をせなり候とも小蒸
吃んとつり行者笑と曰我兒只三昧火有と他小勝をとれども
他小七十二般乃変化有とつり小妖猪が曰他變化を憑とつり
とつり我とつり他を認はる他決とつり我門小きとつり能ハト行
者が曰とつり斯のてとつりあふ心易し我唐僧乃肉を吃とつり
いも今日小吃とつり小妖猪が曰何の故とつり今日小吃とつり小妖猪が曰
が曰我斯老年小つり小妖猪が曰汝が女我小些乃善とつり善を作人とつり
勸む我とつり小是とつり何の作善をせとつり依とつり些の毒戒を持



西遊記卷之五



孫行者
孫行者
牛魔王
欺妖怪

悟空

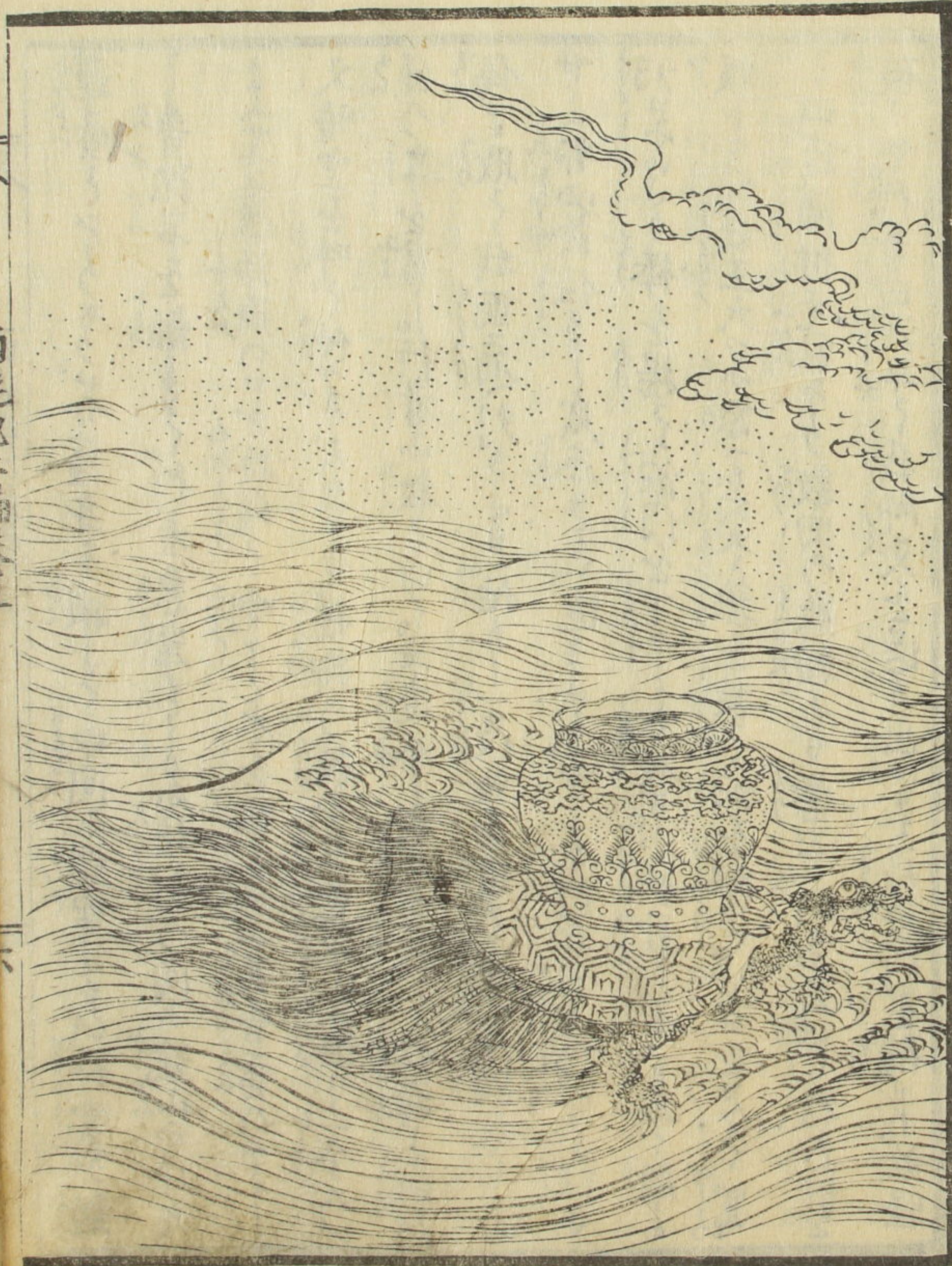
西遊記卷之五

妖精曰及王乃我長孫是月夜行者曰長孫乃子月
 夜乃子月每月初四日方喚雷我乃妖精曰今日其四日
 内小行者曰三辛初六不逢今日辛酉の日不逢後日方明
 日他我蒸汝汝曰吃妖精是汝心申訝我及平日人
 吃我我為生手怎麼又我戒をよん此言可疑と申す
 甘く坐を退た六人の健將を呼び同ら汝亦老大王を那里
 乞きさるや六怪が白路の上居玉ひを請きり妖精が白板を老
 大王假的なり汝們都に要準器械を備へ待せ我再び他不
 向ありも他不對同ハ我一声唄其時汝亦一各小手を下せ小
 命を領し用意をす妖精も裡面入行者不對と曰愚男今
 日又王を請し二不八唐僧の肉を献じ二不を我出產する年月内

目を志きいれをを同なり願くは是を知せり行者
 笑曰汝が生年月日我老幸小固王忘記り明日家小回し汝が母
 親小回し教し妖精嘲り及王平日我小字を説り天不老
 乃壽ありと云り怎麼と云一旦小志き玉乙やクあり是假助
 らんと云一声高く唄ひれを衆怪鎗刀を舞り行者を望し
 破り行者も破り破り破り金光と變り洞門をの
 出洞と叫び松林小きる汝僧待居り其消息を同行者曰
 我他を救ひ師又を救しと申す此上六我行く觀音菩薩
 を乞きし汝僧白汝腰痛がるや行者白今不疼し即ち
 半雲小縦進小南海の直小落伽崖上小登り菩薩を
 下拜し紅孩児の皮を説師又乃難を救しと乞觀音宜く他

三昧大神通廣大なり。念磨早く来りて我を靖がるや。行者曰。弟子
 早く来りて善菩薩を靖し。もろんとし。他が三昧大壞ら。雲
 小駕りて不能。戒小命。善菩薩を靖き。むろ小那款子。いまふ
 寶山中。不到。那款猪が善菩薩の像。小変下居。小賺され皮袋。小
 表。泪中。小在此。故小遅。ききり。觀音少。大。怒。這
 濃妖。敢。我。姿。小。變。ど。や。手。中。乃。淨。瓶。を。海。裡。小。投。入。ま
 悟。空。其。心。を。あ。げ。我。統。的。給。不。好。小。依。善。菩。薩。怒。り。小。堪。を。淨。瓶
 を。損。了。の。可。惜。々。々。と。心。り。裡。小。思。ふ。あ。終。々。々。小。怒。り。海。中
 波。を。翻。一。個。の。烏。龜。浮。出。那。龜。淨。瓶。を。踏。小。爬。上。り。て。善。菩。薩
 小。對。點。頭。々。々。々。二十四點。善。菩。薩。行。者。小。向。ひ。汝。那。淨。瓶。を。拿。上
 き。れ。と。命。り。の。行。者。領。掌。し。て。瓶。を。と。り。と。り。小。双。手。を。掛

く。後。分。毫。も。動。く。事。り。不。能。是。ハ。如。何。也。悵。果。左。右。々。々。々。善。菩。薩
 々。微。笑。り。ひ。這。淨。瓶。ハ。當。回。ハ。空。瓶。なり。今。海。小。抛。下。し。て。一。回。一
 滴。の。水。を。収。り。裡。面。小。あり。汝。毒。海。を。架。る。力。量。を。見。故。小。拿。て。動
 く。事。り。能。く。事。り。遂。小。走。下。り。右。乃。手。中。に。狂。々。と。提。起。左。乃。掌
 小。兼。少。ハ。那。龜。ハ。點。々。々。海。中。小。沈。去。善。菩。薩。曰。我。此。瓶。中。乃。耳
 露。水。那。龜。王。乃。私。雨。と。曰。り。々。々。那。款。猪。々。三。昧。天。を。滅。す。汝。小。子
 々。師。父。を。救。せ。ん。と。要。と。れ。れ。も。汝。今。動。く。事。り。不。能。今。我。汝。と。同。く
 去。る。唐。僧。を。救。下。行。者。盛。頭。々。思。を。謝。す。善。菩。薩。惠。岸。小。分。付
 上。界。小。行。く。汝。が。又。王。乃。三。十。六。把。乃。天。罡。刀。を。借。き。れ。と。命。り。の。惠
 岸。命。を。領。り。去。須。臾。々。回。轉。天。岡。刀。を。善。菩。薩。小。捧。も。る。善。菩。薩。是
 を。手。小。り。抛。下。し。て。咒。語。を。念。じ。之。を。那。妾。の。刀。化。し。て。一。坐。乃。千。葉



西遊記二編卷五

五

蓮臺より降りたり。菩薩身を縦しく中間小端坐し、多し祥雲を起し、普陀岩を離れ、行者惠岸より須臾刻の間小號山小はれ、菩薩浄瓶の口を接頭し、喇々と水を出し、其音雷なり。又悟空を呼び、他が手を出させ、揚柳の枝を甘露水小蘸し、介乃遂に字を書し。行者小教く曰く、汝這拳を挫き、妖精と戦ひ、偽に敗る。我面前に引き、他に一度汝を追ひ、掌に用たり。是れ那必無任る。汝忘まき、追まき、辱し。行者命成鎖く徑小洞の入り棒を揚し、洞門を丁々とし、破る。小妖發死まり、今斯く報られ、妖王大い怒り、大斧鎗を挺し、洞を跳出行者を罵り、罵り曰く、這濞猴无礼なり。數回に敗績、何ぞ懲む。尚まき、我大門を破る。行者曰く、汝早く我師又を送り出さ。再度門を破り、妖怪

大なる怒り、長鎗を縛り、刺し、蒐る。行者棒を奉り、相迎へ、戦ふ。四五合あり、哩に敗る。妖怪立住し、我何ぞ汝を賺され。長追とぞ。我先飯く、唐僧を刷洗し、後汝を捉へ。行者他を哩く曰く、好兒子、大看看、你哩、你来、那怪、行者小哩ら多、嗔怒、一声喝、面前小まき、到、鎗を上り、又刺し、行者再ハ戦ふ。五六回、引返し、逃る。拳を用たり、妖怪を捨た、那、勿心、迷亂せ、我を忘まき、追まき、行者ハ妖精を鉤出し、早く身を菩薩の金光乃影子隠し、ね、妖怪、追進し、睜眼、小菩薩を見、罵り、曰く、汝、行者を殺し、と、き、れ、如何、菩薩を、觀音、是、我、一、言、由、吾、玉、守、自、若、と、端坐し、又、妖怪、大い怒り、劈心、一、鎗、を、奉り、刺し、金光と、變り、九宵、空内、小まき、昇

行者惠岸めぐみも小室こむろ中ちゆう小在せうざいく是こゝを見みぬ那妖ないう笑わらひ曰い渡わた猴こう我われと
幾いくばく度たび交まじ戦せんつる勝かちつる能よ半はん。又また去さる膿うみ包かみ菩ぼ薩ざつを結むすきつるとい
く我われ一いつ鎗しやうを吃くつる影かげも形かたちもなかり逃にげ失しつる志こゝろのまじり蓮れん臺たい
まじり舎しや下げつる可あ笑わらまじり且かつ我われ上あつる坐ざせんまじり自みづから菩ぼ薩ざつを学まなぶ
手てを盤ばんり脚あしを盤ばんつる蓮れん臺たい乃すなはち中ちゆう間かん小せう坐ざと其その因よ菩ぼ薩ざつ揚やう柳りゆうの枝えだを
持もつ指さし招まねふ。今いま近ちか花はな彩さい祥しやう光くわう乃すなはち十じゆ葉えふ蓮れん臺たい忽たち然ぜんつる三十六
把た乃すなはち天てん罡かう刀とうとなり妖いう怪かい乃すなはち兩りやう脚あしを穿うち血ちゆう流りゆうつる任また妖いう大だい乃すなはち
うた牙きばを咬くはむ疼いた痛いたを忍しのみ火か焰えん鎗しやうを舎しや下げ刀とうを將しやうつる搜さうり捨すんと
と菩ぼ薩ざつまじり兎う児ご鎗しやうを念ねんふ那な刀とう脚あしを貫つりま鉤かぎ針はり乃すなはち曲まがつ
繩なり能よ半はん。茲いま小せう於おつるの惡あく怪かい疼いた痛いた禁かぎり哀あはれ叫なび
曰い菩ぼ薩ざつ免めんささめ我われ眼まなこ有ある腫はれを廣ひろ大だい乃すなはち法ほふ刀とうを舎しや下げ

く无む礼らいをなせり願ねんつる無む慈じを乞こふ我われ姓しやう命めいを乞こふ饒にぎり小せう再さい
び惡あく業ごふをなせり法ほふ門もん乃すなはち戒かい行ぎやうを保たもつといひれむ菩ぼ薩ざつ行ぎやう者しやと
つ小せう九きゆう宵しやうを下くだり曰い汝なんぢ今いま乃すなはち言いひ背そむりまど妖いう怪かい洞どうを流ながし命めい
と小せう助すけけむつ長ながく徒と弟ていとなりい乙おつ觀くわん音おん其その因よ柳りゆう葉えふを將しやうつ棄す
つ刺さ頭かう刀とう乃すなはち近ちかく進しんつ妖いう怪かい乃すなはち頂てい乃すなはち髪かみを今いま剃そつ只ただ三さん个ごの捨すつ
留りゆう下げ挽ま起きつ三さん个ご乃すなはち高かう角かく揪しゆ兒ご乃すなはち宜よろし汝なんぢ今いま乃すなはち長ながく惡あく念ねんを
断たつ我われ小せう奉ほう侍しせり今いま乃すなはち汝なんぢを善ぜん財ざい童どう子しとなせり妖いう怪かい是こゝを
つ大だい乃すなはち只ただ望のぞむひらひ疼いた痛いたを饒にぎり菩ぼ薩ざつ點てん首しゆ乃すなはち手て
持もつ指さしつ一いつ声せい呼こゝろふ乃すなはち天てん罡かう刀とう乃すなはち脱だ落らく童どう子し乃すなはち身み軀く一いつ点てん乃すなはち痕あと
乃すなはち菩ぼ薩ざつ天てん罡かう刀とうを捨すつ収こつ惠めぐ岸あん小せう命めい乃すなはち天てん宮みやう送おくり返かへつ
乃すなはち童どう子し乃すなはち野の性じやう乃すなはち定さだめ乃すなはち腿あし脚くわ乃すなはち痕あと乃すなはち疼いた止とつ小せう乃すなはち付つく乃すなはち



紅孩児



観音大士

悟空

悟空詐
敗引紅
孩児

悟空

らく他真乃法カハあり。只一個の妖術の何程のさあんと。録
 をとつて菩薩を劈ひ刺さる。行者大ッ怒リ鉄棒を上へ擧手んと
 するを菩薩早く制し。一個の箍兒を將て童子を望み捉まへ
 ち。忽ち斐どく五個の箍兒をかり。一ハ童子が頭ハ入。四
 肢ハ入。童子中ら。是を搜し捨んとせんも。脇をす。息を念
 三昧火を吹んとせんも。前ハ菩薩淨瓶の水を出し散し。入む
 三昧火生む。さうさ。童子も惘果々忙し。さ。小菩薩除ふ。徒兒
 念兒。徒兒を。童子が五肢疼痛する。襲が。さ。大ッ慌々
 耳を搓。腮を搦。踵を撥。さ。夜饒し。さ。哀叫て。同々
 黒河妖孽擒僧去
 西洋龍子捉鼉回
 此河觀音菩薩童子が同乱するを耳の中に入む。行者小示し。

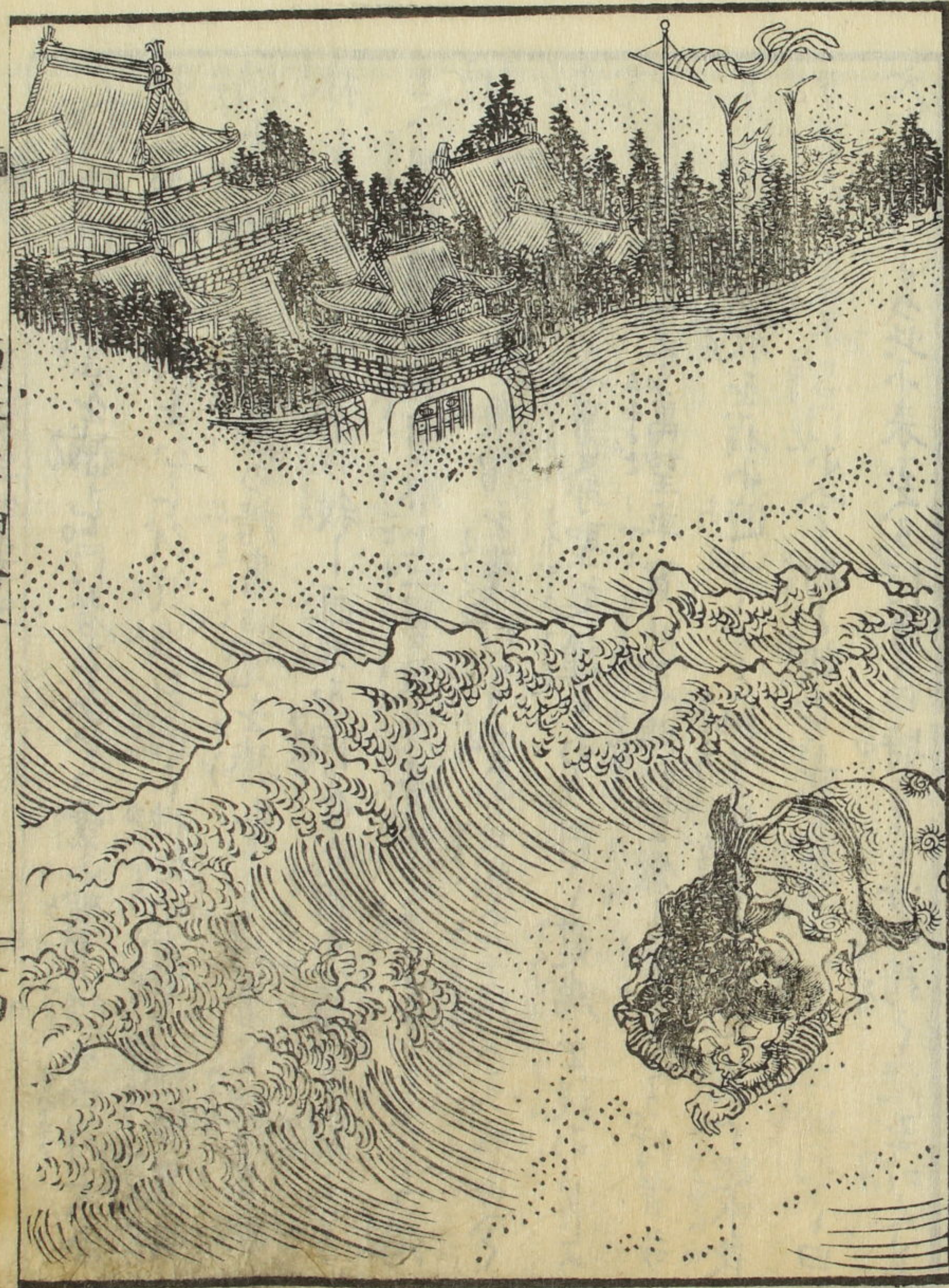
宜く汝是を人。曾て我佛如来。我小金緊禁。三個の箍兒を授
 ち。緊箍兒ハ先ハ汝小与へ禁。箍兒ハ守山大神を収む。殘り金
 箍兒ハ未と授く。が。た。者。か。さ。小。今。這。童子小授。さ。統。又
 童子小向ひ。汝後ハ惡念を断さ。や。い。中。責。童子困。泣く
 曰。菩薩饒し。我。此。後。ハ。決。惡。心。を。起。し。菩薩。御
 手小捻む。ひ。訣。を。さ。ひ。忽。ち。苦。痛。を。忘。る。童子。青。の。死
 を。吐。手足。金。箍。を。除。去。んと。せん。只。一般。乃。肉。根。を。生。れ。ん。を
 除く。能。ず。行者。笑。曰。汝。菩薩。乃。戒。行。を。受。奉。侍。と。さ。何
 乃。役。め。も。さ。し。嘲。る。も。童子。さ。煩惱。心。を。焦。し。鎗。を。さ。行。者
 を。刺。んと。す。菩薩。早。く。揚。柳。の。枝。を。舉。他。鎗。を。さ。落。し。合
 掌。せ。よ。と。宜。と。童子。我。去。し。一。双。乃。手。を。合。せ。胸。小。當。り。再。ハ。因。ん

してより小更小困こまりて能あたはず。茲こゝ小おりの童子菩薩こどもぼつたの不可思議ふりしぎ
 法力ふりぢを感歎かんたんし頭あたまを低ひく心滅こころし正景ただ小飯いひ一ひとたり赤世あか小至いたてても觀み
 音菩薩おんぼつたの傍そば小侍こざむらい立たて善財童子ぜんざいこどもとて這紅孩兒こゝろにやかいか更またなりたり
 斯かく菩薩行者ぼつたぎやう者もの小分いひ付け汝なんぢ早はやく洞ほら中ちゆう小往ゆく師し又また八戒はつがいを救すくひ西天さいてん
 小赴おこむよと命いのちしひ船ふねも善財童子ぜんざいこどもを引領ひきりやう解と雲うん小駕かと普陀ふた洛らく
 山さんへぞよりあひたる。却かへ流なが汝なんぢ僧そう久くく林間りんかん小有ありく行者ぎやうか音信おんしんを
 待まちども曾そとよりききとされん。又また奈何いかんなる難あや小こ遭あらんと安やすた心こゝろも
 かろりかろり小忽こまち雲頭うんとうより孫行者そんぎやう觀くわん喜ぎと下くだりきく。汝なんぢ僧そうむく
 く其故そのゆゑを問と。行者ぎやう一ひと統まとめ六む汝なんぢ僧そう大だい小ことていい兩個洞ふたほらを跳はりこ
 大雲洞おほうんとう小歩あゆ入い群妖ぐんようを拂はらひ尽つく。三藏さんざう八戒はつがいを解と放はなす。觀音くわんおんを結むす
 く妖まじを收おさりしるを一遍いつぱん統まとめ六む三藏さんざう感かん洞どう小むせと南方みなみと礼らい拜はい

汝なんぢ僧そう八洞はつどう内うちを多おほ飯いひを安やす排ばい師し徒た飽あむく吃くらし。丈ただより四衆ししゆう號ごう山
 を立た出でく西さいを志しし行ゆく數月すうげつ小おとせ流ながく大河おほ小行ゆく
 其水そのみづ黒くろくく水勢みづせ箭やを射やり。三藏さんざう馬まをとく免めん徒た弟てい小向むかひ這
 川かわ何なに小こくく如斯かく黒くろくやと向むかひ八戒はつがい白はく是こゝ家か濼かくく錠じやう缸かうとくく
 汝なんぢ僧そう白はく不ふ是こゝ是こゝ源げん乃すなは里り小筆ふで墨ぼくを洗あらはく。行者ぎやう腹はらを立た。汝なんぢ小乱
 道みちをのりてを休やすみ。只ただ師し又またを渡わたし。土つち夫ををせよ。三藏さんざう曰い。這河こゝ多おほ女
 乃すなは竟いありや。八戒はつがい曰い。凡おほ人ひとの重おもさ傾かた山さんううく。今いま師し又またをお往ゆく。往人むかひく甘あま
 けり。我師われし又またをお往ゆく。雲うん小駕かを三尺さんしゃく也なり地ちを放はなす。身を不ふ好こう常じやう小人
 乃すなはくくあり。凡人おほの重おもさ傾かた山さんううく。今いま師し又またをお往ゆく。往人むかひく甘あま
 我われの時とき連つ小成なりく水みづ小墜おち去さん。師し徒た是こゝ彼か商しやう議ぎく居ゐる所ところ小

小受用しき壽を暖んし。沙僧是成皮く大い怒り宝杖を
 制す。門を乱ちり日濛物性命を惜む快く我師又を送り出さ
 小妖驚た斯く報下れ不妖怪急し一振る竹節鋼鞭を拿て
 門小まり出掲し。曰。汝何者をれむ我門小き。つとく乱ちり。汝
 僧白。汝濛怪前小虚を弄我師又を將し提去り早く送く
 汝が性命を饒さん那怪呵々々。この道和尚乃不知死活唐僧
 我拿く蒸熟し客を結く。小下酒小せん。汝又拿く
 一幾小吃之や。汝僧暴躁宝杖を輪し。ちて。那怪物も鋼鞭
 を拿く相迎。交戦し。三十余合。汝僧暗ふ。多り。這怪是我敵
 手小あ。中も勝る。汝は只偽。他を引出し哥を呼ぶ。ち
 之。虚舎了。敗走。那怪嘲。ひ。汝去。去。我敢。追。下。客を

請く汝師又を蒸吃し。早く門内小引へ。汝僧力なり。気呼
 々々。水を蹴し。出行者を。前を。繞る。行者か。曰。不知他
 何の怪。那の二木の男。又何の怪。と。し。未だ。不見
 灣裡より。個の老翁。走り。出行者が。前小跪下。磕頭。行者曰。汝
 是何者。老翁。洞を流し。曰。我。這河の伯。那妖。旧年。五月。西
 洋より。這大湖。小き。小神。と。交闘。小神。年。老。他。死
 不能。終。小他。為。我。黒水。神。府。を。奪。れ。奈。何。も。と。こ
 不能。送。小海内。小往。小。他。原。来。西。洋。竜。王。の。智。た。か。故。小。不
 取。敢。却。他。小。讓。上。住。今。大。聖。此。小。特。小。願
 ち。望。く。我。為。小。寬。を。報。し。行。者。白。然。小。西。洋。竜。王。罪。有。汝
 僧。茲。小。待。我。海。中。小。令。先。竜。王。を。捉。し。他。不。教。此。怪。物。を。搦



悟空擊殺
 黑臭猪
 得蜜書



悟空

西遊記卷之...

河伯深く大恩を感じて行者と云ふら雲小駕一徑小西洋大海
 小く知避水の訣をむとて波浪を聞て往処小忽ち一個の黒魚
 精小往逢う他一個の精書画見を捧おきり行者耳裡より鉄
 棒を引出し一歩小歩殺し画見を同か多小裡小一張の筒帖あり
 上小黒甥龜紫頭首啓上二舅教老臺下と書りてとあつら聞
 封しく刃まて今唐僧を護けり実小世間小罕物たる甥あて
 自く不用伏せり舅又耶聖延通小あり因て筵席を設あてじぬ
 千秋を祝せんとす萬望車駕速小臨行を願し書しり行者歩
 りて這厠供状を我小逆子りし袖了小帖子て行処小早く巡水夜
 刃望る急小言門小令斯と報むと電王教頓怖く出迎向り曰
 大聖何りとも此小未まへる行者曰特きく汝小精く酒を吃んら

たり先汝小刀を物ありと袖中より筒帖を取出し電王小逆子
 電王是をりて魂起魄散慌忙と跪下り曰大聖やが怒を休め
 耶厮八是舍妹弟九人目乃児の兩を錯行する罪此更初小より
 魏徵小斬まする者乃遺胃乃舍甥なりゆ小他を黒水河小遣
 一性を兼ひ真を修せしむ然る小不期ゆり悪孽をなすと小
 竜をあらち人を差しと他をとく罪を謝せんと急小太子摩昂
 を換ぐ五百乃壯兵を附属し汝往く小壘を捉へきされと命し
 々多ハ太子命を領掌すと茲小あり行者電王小別く摩昂と
 小り小兵を領し黒水河乃水府小り摩昂と水猿をりれ
 妖怪小面會せんを精那怪心疑り曰我黒魚精小投帖を持
 一差し二舅を精小怠麻まきり却り表兄乃きりや是

西遊記 卷五

と頭を叩き罪を謝し大聖願く小鼈を縛りしを饒し又我
河中より唐僧師弟を送りきくく小鼈曰大聖他を放し
水府(同)又悪念を半し汝僧曰我他水府を去り師
を迎(き)く河伯と歩連水中小跳令(ま)廷小水府小(ま)小妖を
歩退け唐僧八戒を解去水面小背出(ま)八戒那妖怪が縛ら
岸小在(ま)急小鉦を上げ撃んと(ま)行者其手を(ま)曰他
罪ありと(ま)教家賢父子情黙止(ま)汝他が罪を免せ大昂
白今既小師又師弟を救ひ(ま)小鼈八這(ま)厨を引連(ま)りい
大聖他が死罪を饒(ま)し又(ま)家又(ま)決(ま)し(ま)罪を(ま)行者曰
如(ま)汝(ま)を汝(ま)他を領(ま)く(ま)今(ま)尊(ま)小(ま)拜(ま)上(ま)深(ま)く(ま)恩(ま)を(ま)謝(ま)せ(ま)と
中(ま)れ(ま)大(ま)昂(ま)唯(ま)く(ま)那(ま)故(ま)を(ま)引(ま)連(ま)小(ま)西(ま)洋(ま)大(ま)海(ま)小(ま)り(ま)ね(ま)板(ま)河(ま)伯

水府を奪(ま)く(ま)三(ま)藏(ま)師(ま)弟(ま)小(ま)深(ま)く(ま)恩(ま)を(ま)謝(ま)し(ま)小(ま)神
道を(ま)突(ま)た(ま)し(ま)法(ま)術(ま)を(ま)起(ま)し(ま)水(ま)以(ま)阻(ま)り(ま)上(ま)流(ま)を(ま)せ(ま)と(ま)
大(ま)の(ま)小(ま)り(ま)西(ま)岸(ま)小(ま)行(ま)者(ま)指(ま)を(ま)り(ま)小(ま)河(ま)伯(ま)の(ま)像(ま)を(ま)上
流(ま)の(ま)水(ま)漲(ま)り(ま)流(ま)ま(ま)以前(ま)の(ま)大(ま)河(ま)と(ま)な(ま)り(ま)小(ま)り

法身元運逢車力 心正妖邪度眷関

結(ま)鏡(ま)三(ま)藏(ま)師(ま)弟(ま)黑(ま)水(ま)河(ま)を(ま)過(ま)り(ま)行(ま)り(ま)夏(ま)同(ま)小(ま)り(ま)春(ま)の(ま)天(ま)気
小(ま)值(ま)師(ま)徒(ま)路(ま)上(ま)の(ま)景(ま)色(ま)を(ま)遊(ま)観(ま)し(ま)笑(ま)語(ま)り(ま)行(ま)処(ま)小(ま)心(ま)り(ま)數(ま)万(ま)人(ま)の
呐喊(ま)声(ま)も(ま)三(ま)藏(ま)害(ま)怕(ま)り(ま)曰(ま)悟(ま)空(ま)那(ま)响(ま)声(ま)小(ま)那(ま)里(ま)か(ま)り(ま)行(ま)者(ま)曰(ま)老(ま)猿(ま)也
城(ま)地(ま)あり(ま)那(ま)城(ま)門(ま)外(ま)小(ま)一(ま)座(ま)の(ま)沙(ま)灘(ま)あり(ま)數(ま)万(ま)の(ま)僧(ま)人(ま)擔(ま)杖(ま)徒(ま)て(ま)車(ま)と

悟空
救車遅
國於衆
僧患
難



西遊記 第三十三回

汝灘上の僧人を指定て曰他より車小装束処の的我家生活なり先
 一應改めまゝに行者又其由を問道士曰當年雨を求るの
 因國王僧人を請て佛を拜し雨を祈しむる小那和尚未空經を
 念ぐ不洩更に來我師又一到小雨を喚風を呼万民の塗炭を
 拔海了其因朝廷怒りて那和尚を无用の者なりと他が口を
 折了追了他が度牒脚賜を我の小賜に因りて返り住房未完
 なる由も小這和尚們も分付磚瓦木植亦を拽運をせ屋宇の
 起蓋をたす只恐る他が徒貧困に及躲懶我兩們を著る
 查しむる所なり行者説を申了りて涙をなみ貧道二個の叔父
 あり出家剃髪し僧となり這幾年家小なるを我も亦祖上乃
 一派かれの特きも尋まざる未知此衆僧の中もあらんも知る

折れ我往々查し道士が白羅を我兩個とらりて坐下し汝汝灘小去
 り我小替りて一々查し點りて五百の名數あふとあつたり中より
 汝が令叔あり我亦道中の情をりて他を放ち去りて行者思
 を謝し道士小別を往小汝灘に往雙關を過り背夾を下り小
 僧人一各小跪りて頭を磕く行者曰我ハ監工あり親的を尋りて
 きり者なり衆僧更に個々頭を出し面を露しとありて擇出され
 り適まらぬに面色なり行者大口開り呵々として曰汝亦衆不長俊
 怎麼不去りて那道士の傭工小とらや衆僧亦曰是れ之深丸利害
 あり這里の國王三個の道士を信仰し我亦を滅し寺を折了度
 牒を追拂ひ那仙長小賜り行者曰那道士何の巧術有るか國王
 を誘動や衆僧曰會燒りて丹を煉石を點りて金とかり或ハ兩

を呼ぶ或風を呼ぶ今觀裡に在る昼夜者經君王の万年不老と符
ふ是ともあつし君心を感動せしむる所以なり。行者曰如此かば汝
們何くも不きや。衆僧曰敢てまうらう。其のちと那道士君王小
奏し。我が畫了形因を把り四下小張掛官職ある者一介の和尚を
拿らう何と官三叙を陞せ。无官の者一介の和尚を拿らう何賞金
五十兩を賜ふ。此故に去脱するも能はず。行者曰既小如斯かを汝
們死す罷衆僧曰此的終焉。我徒捉られしもの三千余衆あり
小。艱難苦楚不堪の死するもの六七日人。其後すも死するもの七八
百人只剩了。我五百個不ぼ死見食一度稀粥を食ふ夜に汝
灘小則し綿小眼を合さるも然る小一夜神人有。我徒小勧説。曰
汝小只管小死を要るこたかれ志をく。苦楚を推し東土より西土

性。經をとも羅漢の大徒弟。每天大聖孫悟空とりあり。りつと
不平のつを収む。遠く守り。他這里きり。道士を滅。汝們を
まを再度汝門禪教を國中弘むる何をば。と告り。行方なく
失り。因。我徒多くの憂若を忍び。り。つ。每天大聖のきり
殺し。我望む。赤子の母を清が如し。とさあくと泣て。経る

繪本西遊記二編卷之五畢



